

大村市の紹介

大村市は、長崎空港がある市で、長崎県の空の玄関口にあたります。長崎県の県庁所在地にして人口第一位の長崎市は大村市の南に、ハウステンボスがある人口第二位の佐世保市は北にあり、どちらも長崎空港からは、リムジンバスで1時間弱です。

ここでは、大村市の代表的場所である「大村公園」と、代表的食べ物である「大村角寿司」をご紹介します。

大村公園

大村公園は、大村藩主の居城であった玖島城の城址です。初代大村藩主大村喜前（よしあき）により16世紀末に築かれ、最後の藩主大村純熙（すみひろ）の代まで270年あまり、玖島城は大村藩の政治の中心でした。

庭園部分では、春から初夏にかけて、桜、つつじ、藤、菖蒲と、色々な花が咲き、訪れた人々を楽しませてくれます。

桜



藤棚



菖蒲



玖島城の石垣と大手門

城の面影を一番感じるのは石垣で、左写真のように右に続き、右写真の大手門に至ります。鳥居があるのは、本丸跡が今は大村神社になっているからです。鳥居をくぐり昇ると大村神社です。



(櫓は当時のもではありません)

大村神社(玖島城本丸跡)

左右の柵に囲まれた二本の木は、国の天然記念物に指定されているオオムラザクラの原木です。



オオムラザクラ（国の天然記念物）

二段の八重桜になっていて、大村市の市の花です。写真中央の花では、一段目の花が咲き、その真ん中に二段目の花の蕾が見えます。



「大村市公式ホームページ」より

大村角寿司

大村の食べ物の代表は、大村角寿司です。

繊細な錦糸卵が豪華に乗った押し寿司を、四角に切って頂きます。



大村角寿司は、戦国時代に敗戦で領地を奪われた大村の領主が後に勝利して戻った時に、領民らが炊いた米を浅い木箱に広げ、具を乗せて押し寿司を急ごしらえしたことが、起源とされています。兵士らはそれを脇差で切って食べたとのこと。